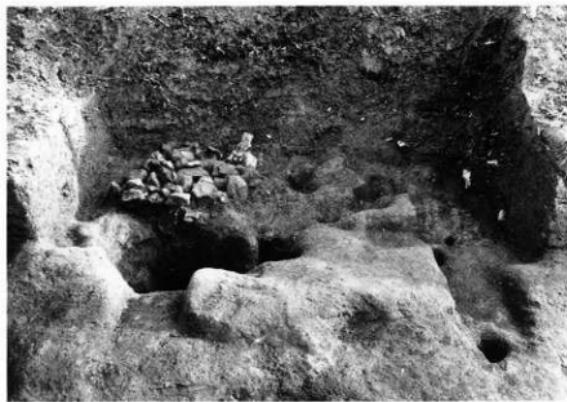


図版 4



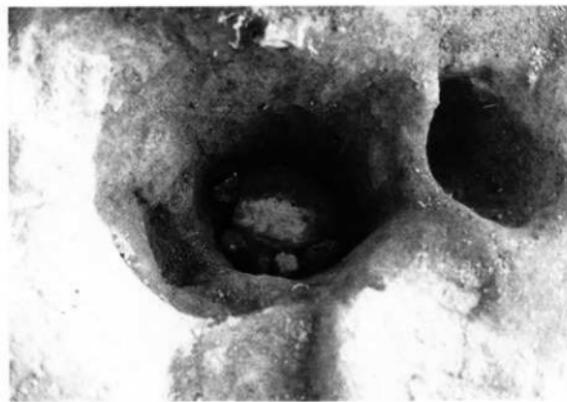
図版 5



SK08 1



集石



SK08 2

図版 6



SK08完掘状況



SEO2土層堆積状況

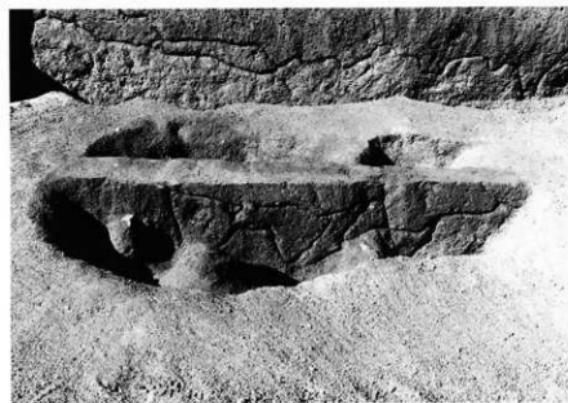


SEO2井戸枠検出状況

图版 7



SK02土层堆积状况



SK02・SK03土层堆积状况



SK03遗物出土状况



SD07・SD09・SD10
完掘状況



SD08遺物出土状況 1



SD08遺物出土状況 2

图版 9



SD08瓦質土器出土状况 1



SD08瓦質土器出土状况 2

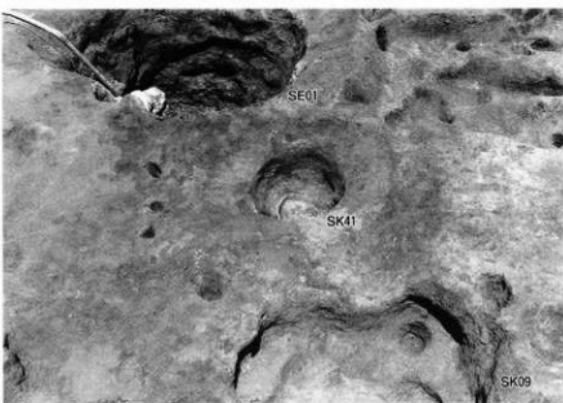


SB01礎石出土状况

図版 10



SK38 土層堆積状況



SEO1・SK41・SK09



SEO1井戸枠検出状況

图版 11



SE01完堀状况



SK41備前焼大甕出土状况



SK41備前焼大甕底部
出土状况



SK09土層堆積状況



SK09遺物出土状況 1



SK09遺物出土状況 2

图版 13



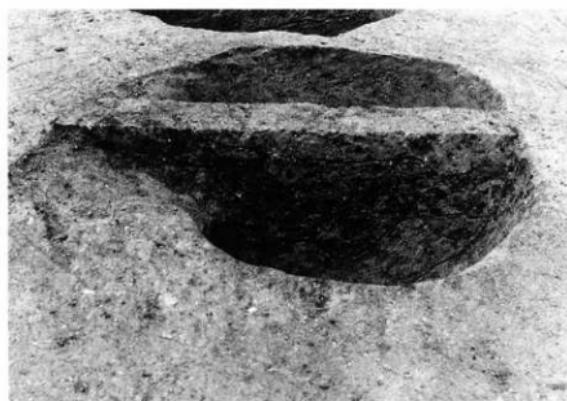
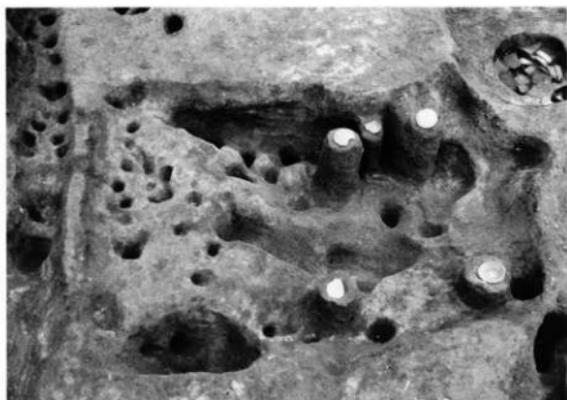
SK09完掘状况



SK09完掘状况



SK93遺物出土状况



圖版 15



鐵冶爐2土層堆積狀況



鐵冶爐1·2完壠狀況 2



土壤土層堆積狀況

図版 16



图版 17



SD29護岸遺構



SD29遺物出土狀況



SD29完掘状况



T-1 磚検出状況



T-1 遺物出土状況 1



T-1 遺物出土状況 2

图版 19



T-2遺物出土狀況 1



T-2遺物出土狀況 2



T-2遺物出土狀況 3



拡張区北側完掘状況
(北側から)

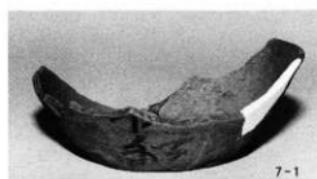


拡張区北側完掘状況
(南東側から)

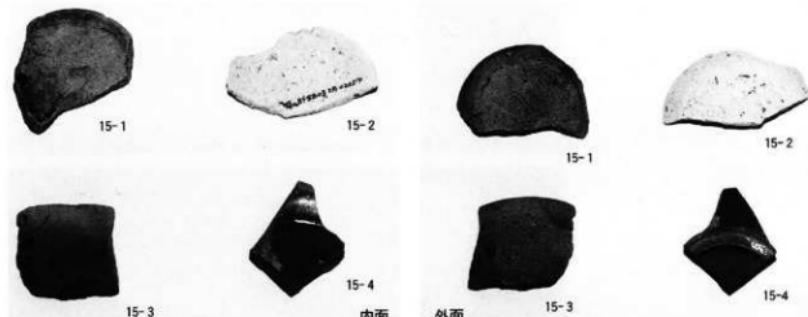


拡張区南側完掘状況

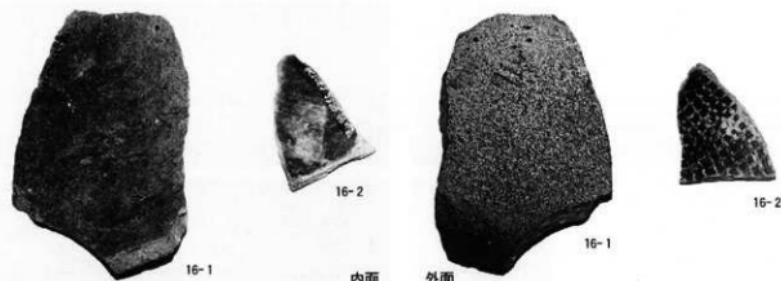
図版21



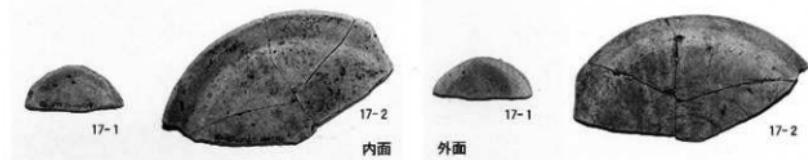
試掘トレンチ出土遺物



SEO3出土遺物



SK85出土遺物



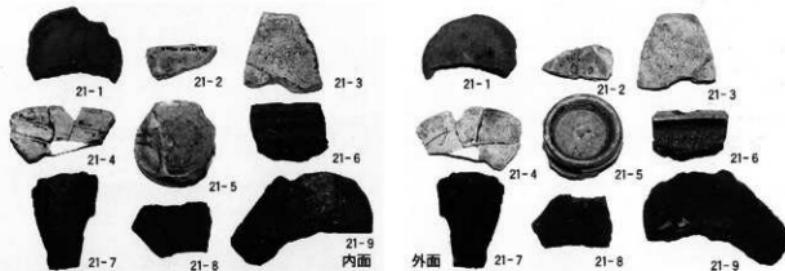
SK76出土遺物



SD30出土遺物

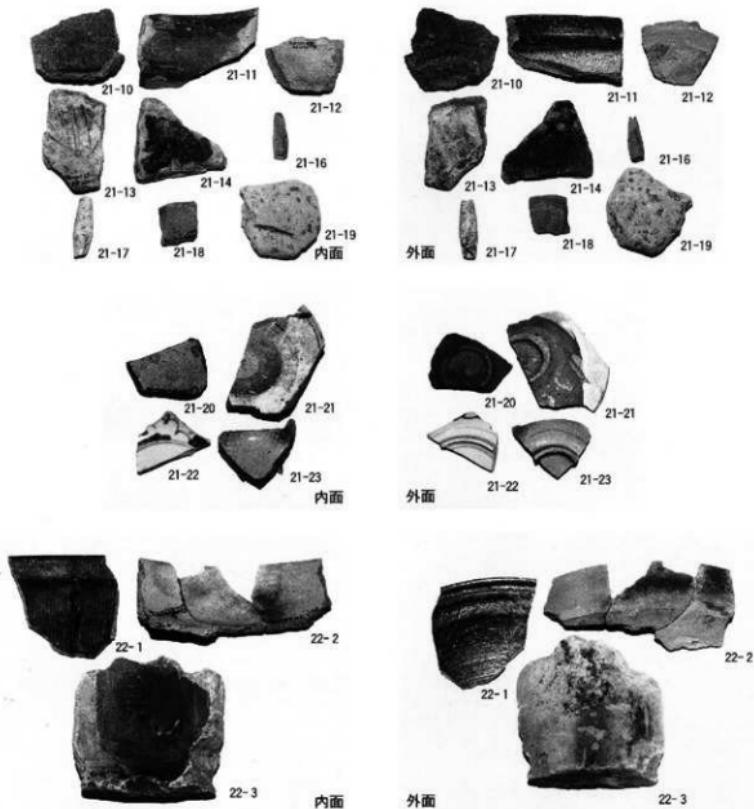


SD20 · P116 · P120出土遺物



SD01出土遺物

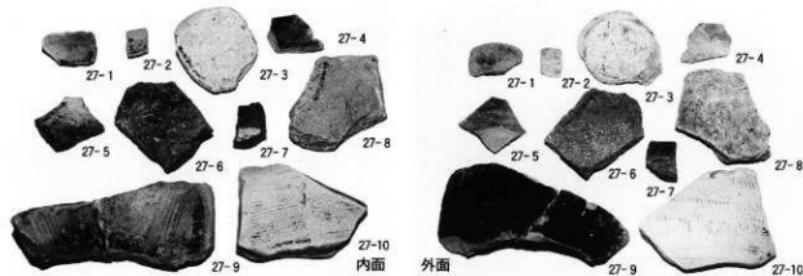
图版23



SD17出土遺物

SK08出土遺物

図版 24

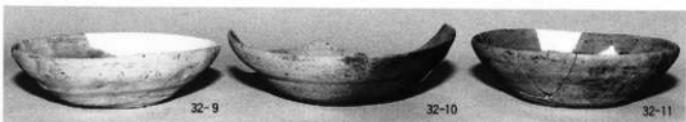
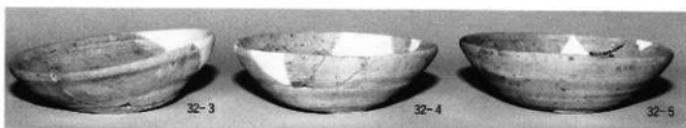
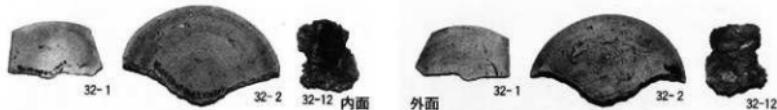


SEO2出土遺物



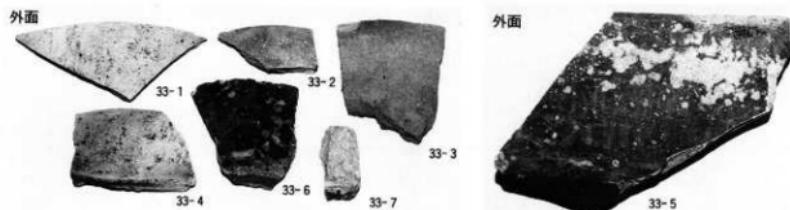
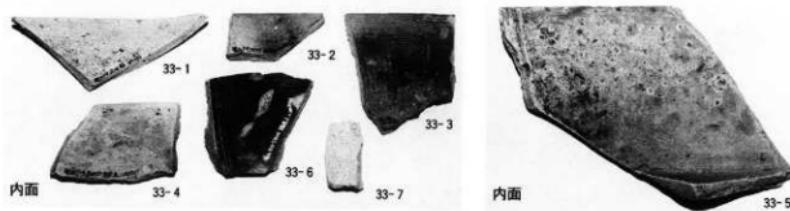
SK02・SK03出土遺物

SD13出土遺物



SD08出土遺物

圖版 25



SD08出土遺物

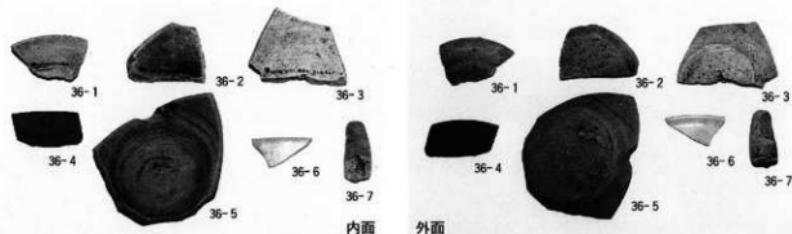


SD08出土鐵製品

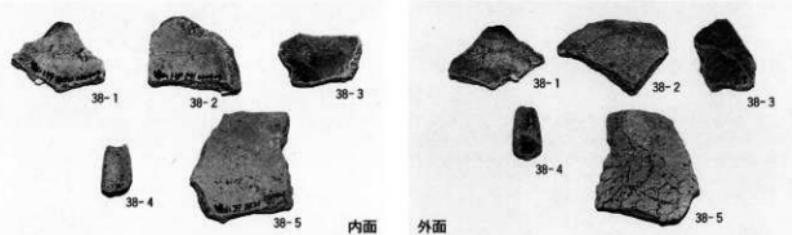


SD07・SD09・SD10出土遺物

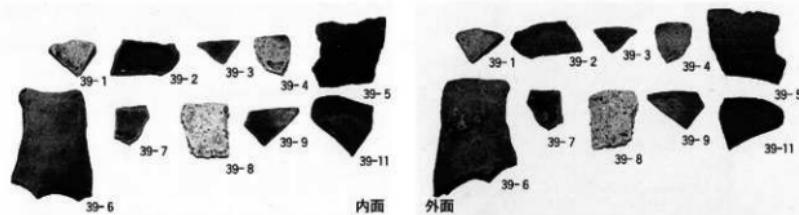
図版 26



SD07出土遺物



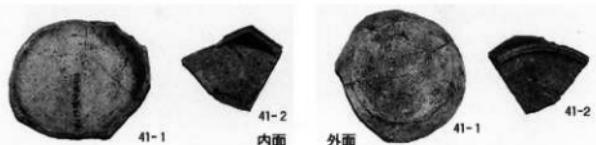
SA02出土遺物



SB01出土遺物



P44出土遺物

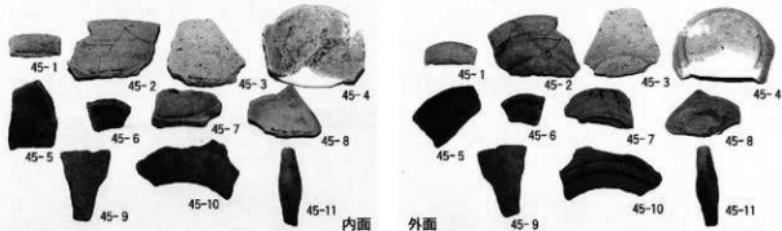


SB02出土遺物

図版 27



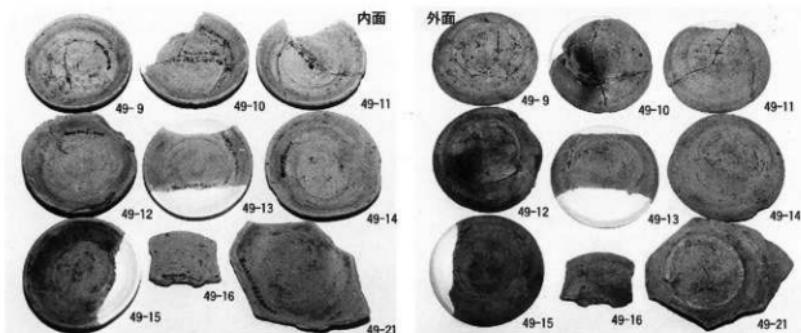
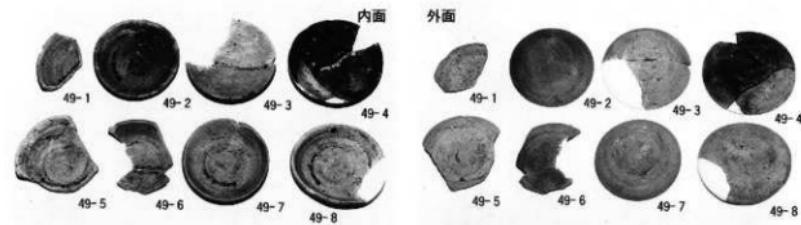
SK38出土遺物



SEO1出土遺物



SK41出土遺物

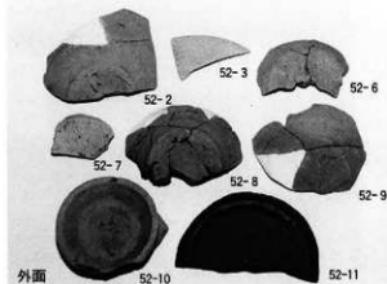
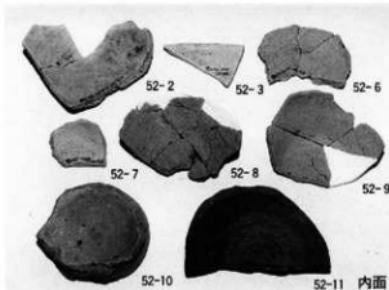


SK09出土遺物

图版29

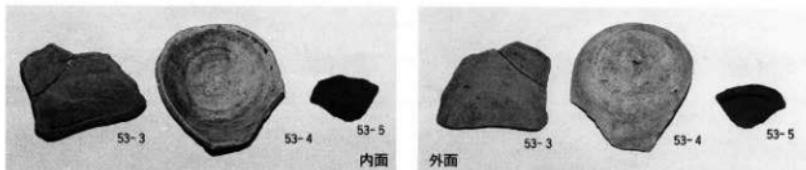


SK09出土遺物

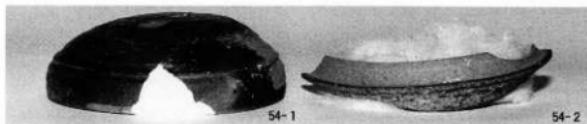


SK93出土遺物

図版 30



SX03出土遺物



SK96出土遺物



SX04出土遺物

SK03出土遺物



SK159出土遺物

SK161出土遺物

圖版 31



SK163出土遺物



61-1 61-2 61-3 61-4
外面



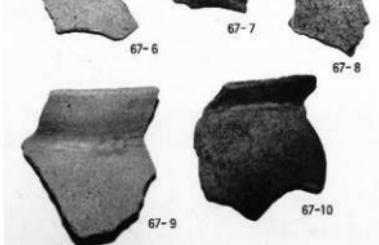
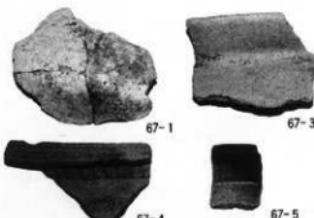
鍛冶炉1出土遺物



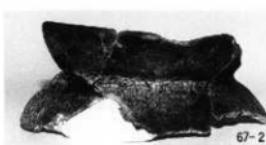
鍛冶炉2出土遺物



SD28出土遺物

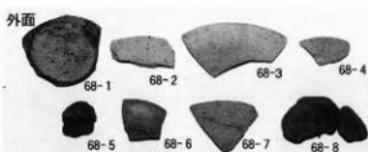
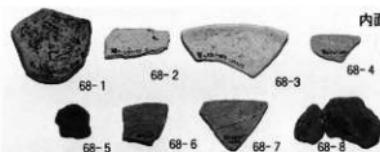


SD29出土遺物

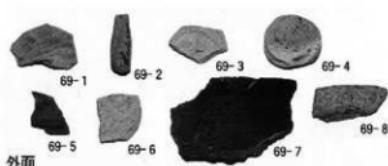
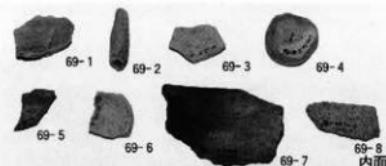




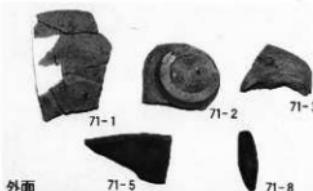
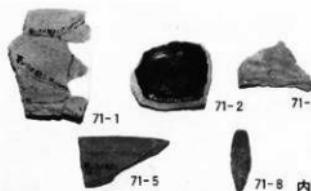
SD29出土遺物



P255・P258・P259・P268・P275・P359出土遺物

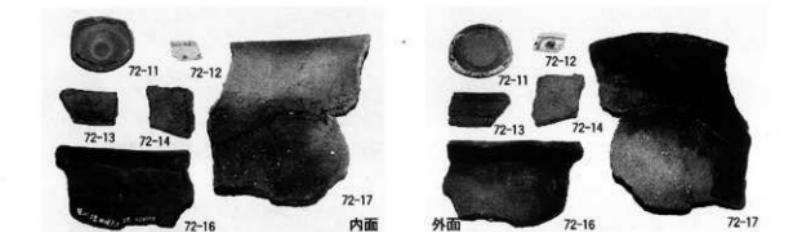
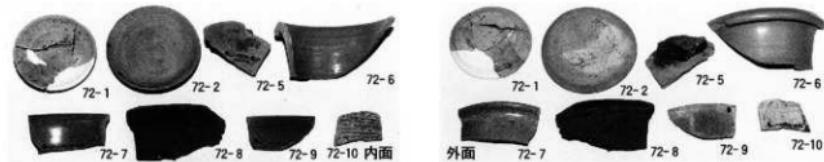


SK120・SK133・SK144出土遺物

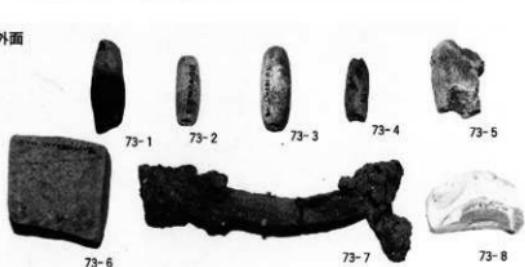


第1層出土遺物

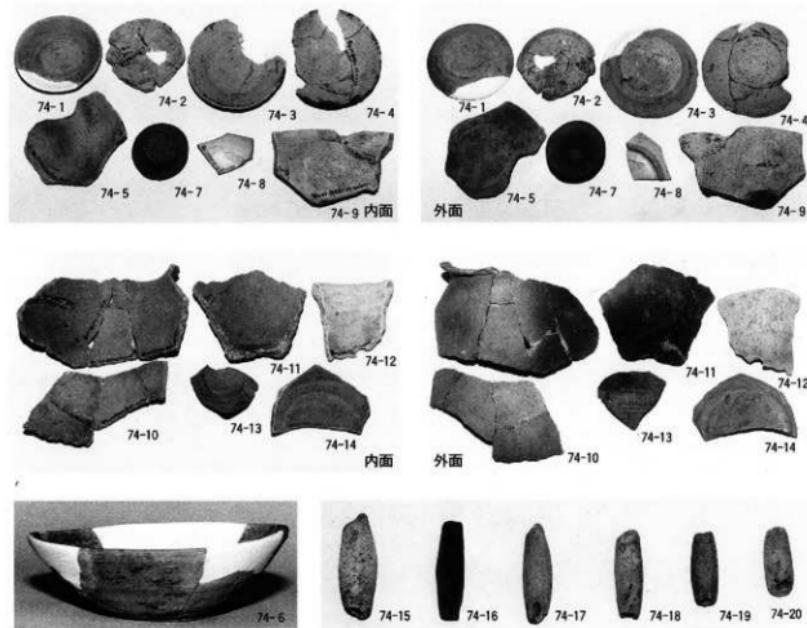
圖版 33



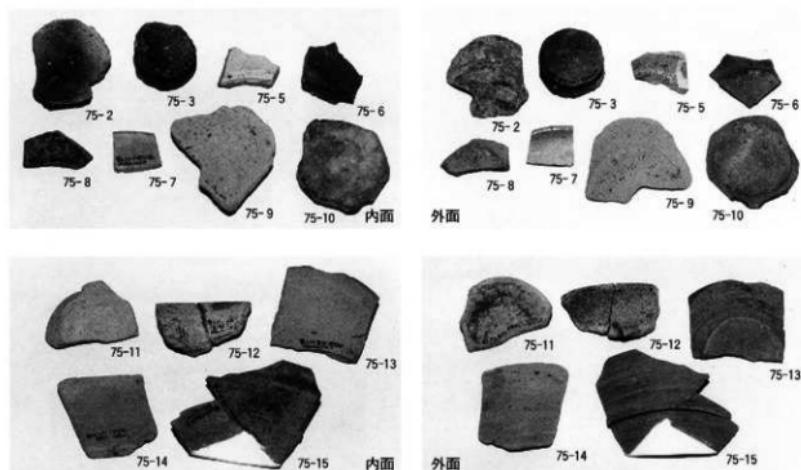
第2・第3層出土遺物



図版 34



第4層出土遺物

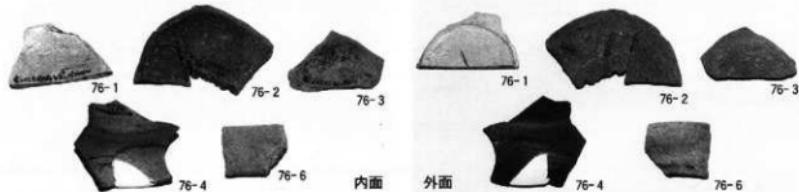


その他の出土遺物 1

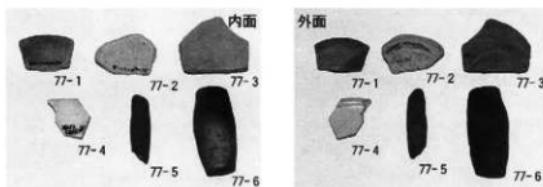
図版35



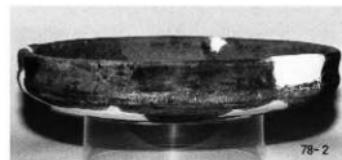
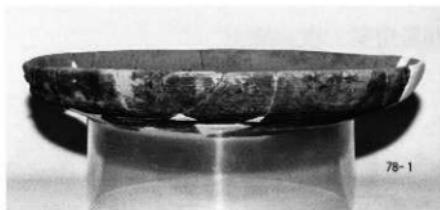
その他の出土遺物1



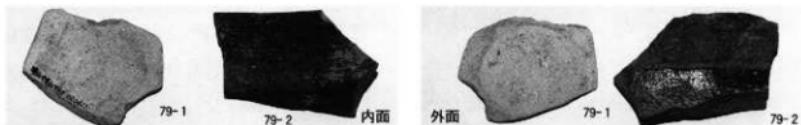
その他の出土遺物2



その他の出土遺物3



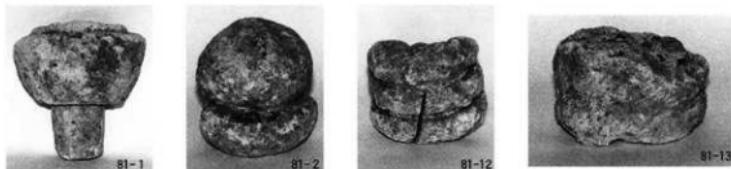
攢乱土出土遺物



中屋山T-1出土遺物

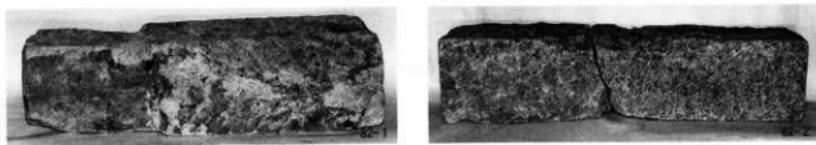
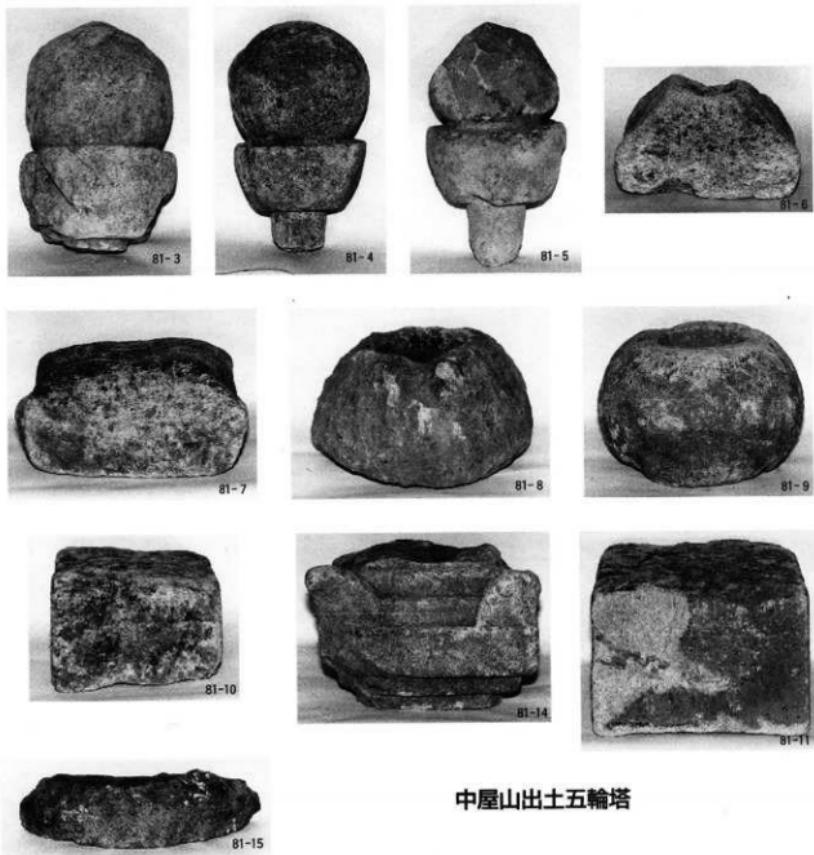


中屋山T-2出土遺物



中屋山出土五輪塔

図版37



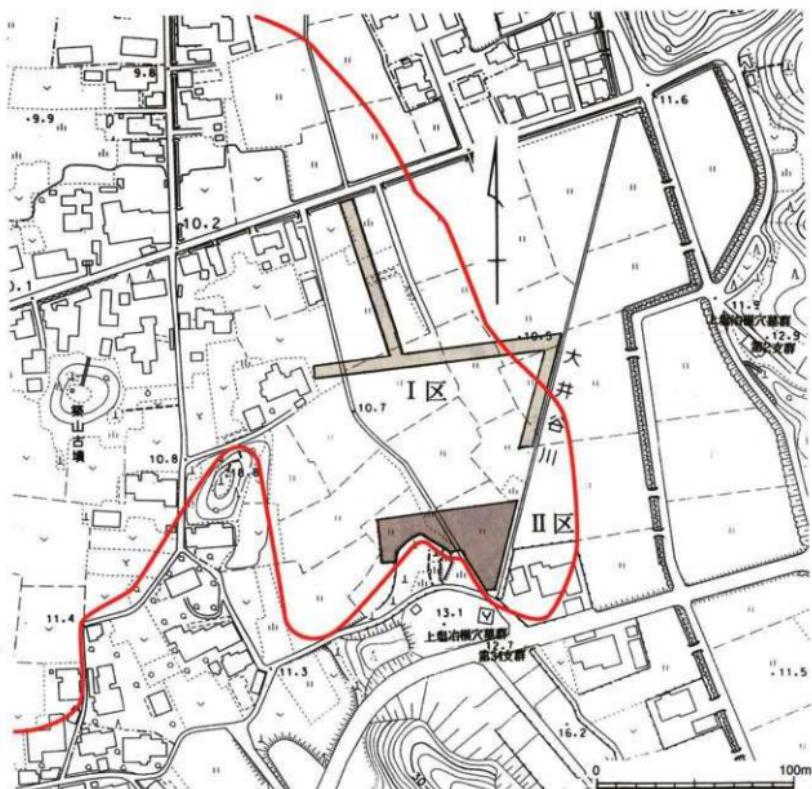
中屋山出土石部材

第4章 築山遺跡の調査

築山遺跡は国史跡「上塙治築山古墳」南方に広がる中世を中心とした時期の集落遺跡として從来から知られていたが、近年の開発事業に伴う試掘調査等によって範囲・時期時期共にさらに広がることが確認されている。

今回の調査地点は從来の想定遺跡範囲のさらに東方、上塙治横穴墓群で知られる大井谷の出口西側にあたる箇所である。調査地は県道出雲三刀屋線予定地で大きく南北に分割されており、便宜上北側をI区、南側をII区と区分けして発掘調査を実施した。

調査の結果、両調査区で弥生時代の溝・土壤、古代～近世の溝・土壤・ピット群などを検出したほか、II区では縄文時代後晚期の遺物包含層も確認された。縄文時代の遺物包含層と弥生時代以降の遺構面との間には厚い砂の堆積が確認され、この間に大規模な洪水があったものと考えられる。



第87図 築山遺跡調査位置図 (S=1/2500)

第1節 I区の調査

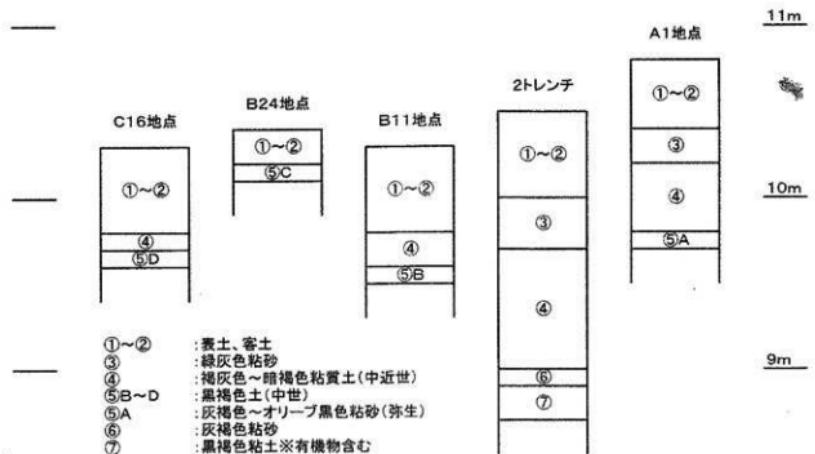
1. 調査の概要

I区の調査は区画道路計画範囲の全域約1,600m²を対象とし、各路線で便宜上I-A~C区の3区に更に細分して調査を実施した。ただし、調査を進めた段階で調査地の北東に向かって地形が落ち込むとともに遺構・遺物が減少することが確認されたため、本発掘調査対象地1,600m²の内約450m²をトレンチによる簡易調査に切り替えた。なお、調査は表土・客土を重機で掘削し、それ後手掘りによって作業を進めた。

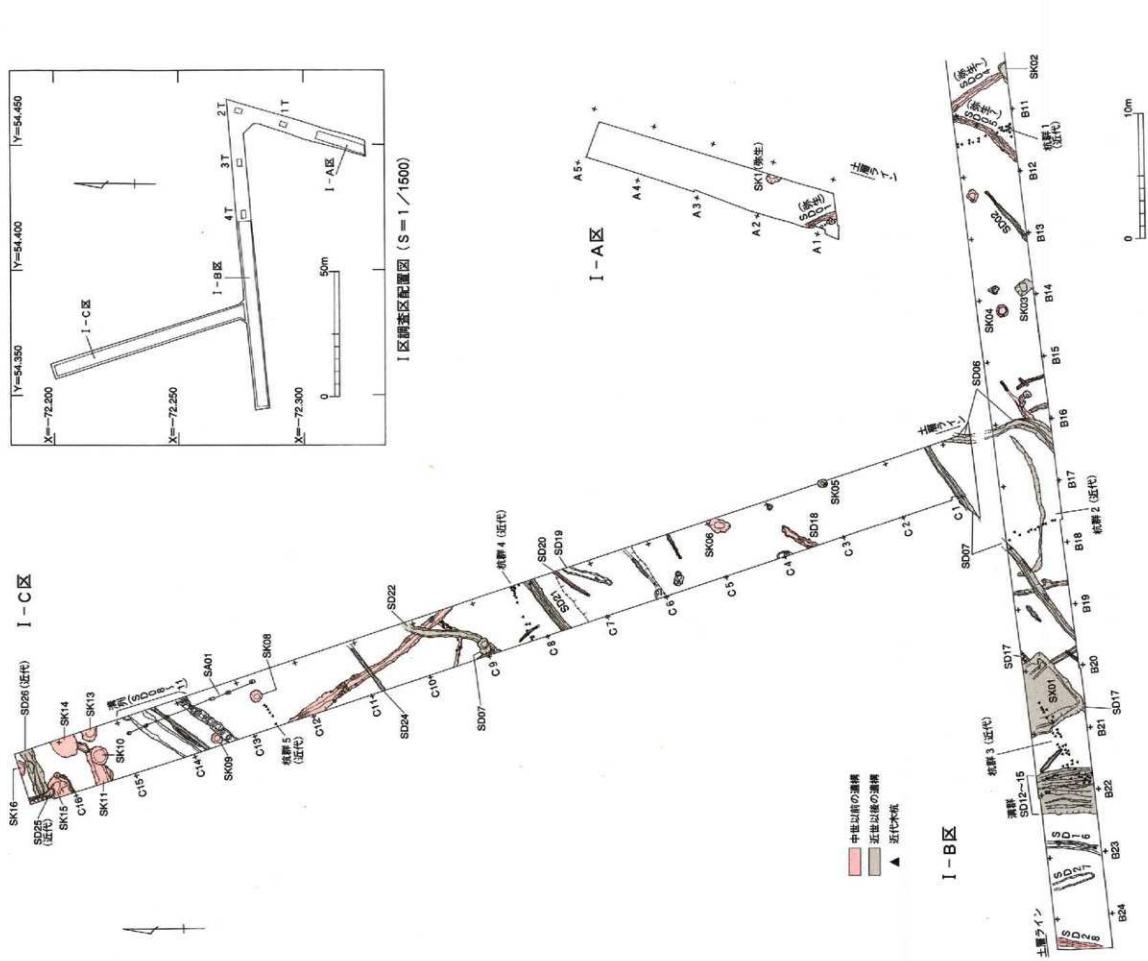
<土層堆積状況>（第88、90図）

堆積土は基本的に上から①②表土・客土、③緑灰色粘砂、④褐灰色～暗褐色粘質土（近世以降の堆積土層）、⑤B黒褐色粘質土（中世の堆積土層）の順に堆積し、一部ではその下層に⑤C・D黒褐色土（中世の堆積土層）、⑥A灰褐色～オリーブ黒色粘砂（弥生前期の堆積土層）、⑦灰褐色粘砂、⑧黒褐色粘土などが堆積していた。また、基盤層は褐灰色～灰色砂層である。

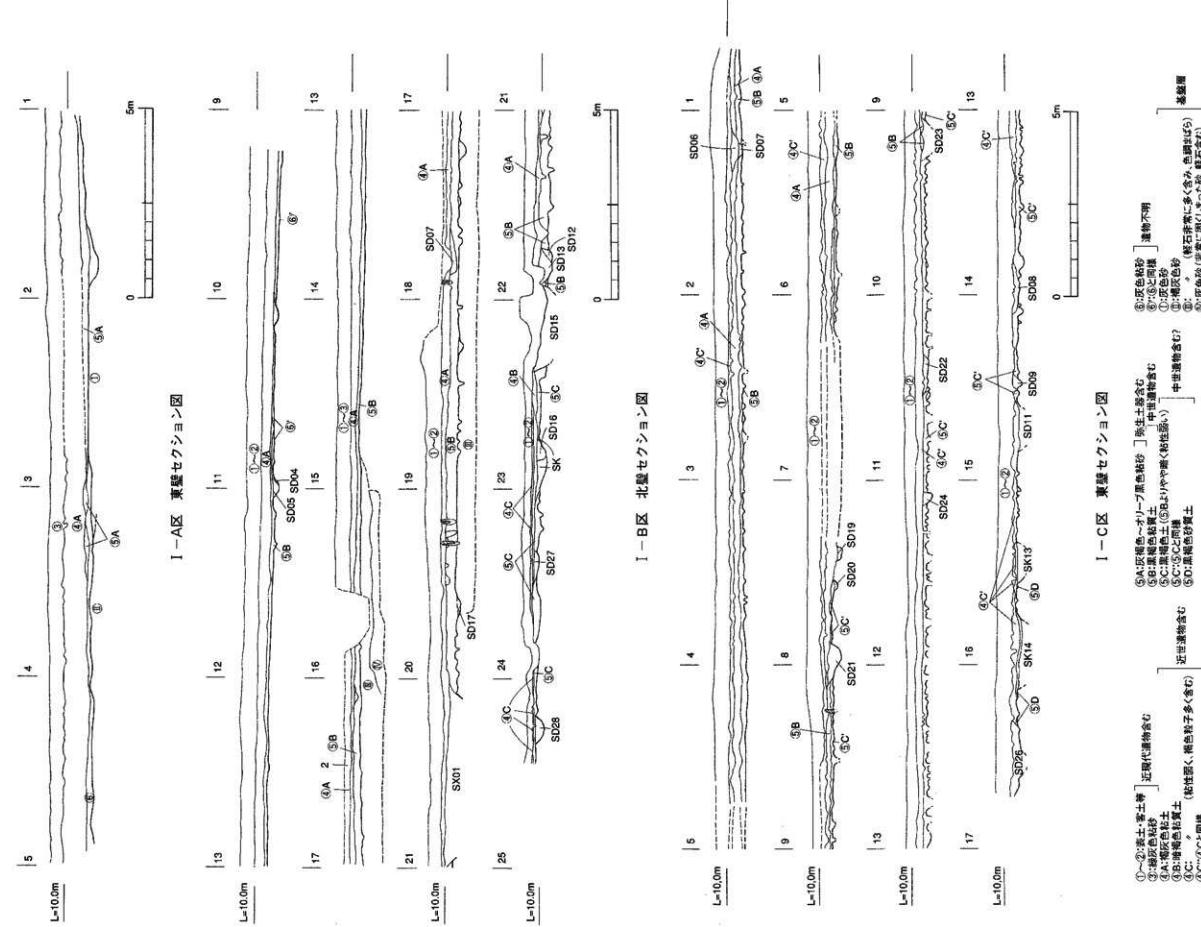
ここで基盤層とした砂層については、後述のII区の調査結果から弥生時代初頭前後に大規模な洪水等で厚く堆積したものであることが判明しており、このさらに下層には縄文時代の遺物包含層が存在するようである。I区の調査では、調査区が狭長で土質が脆弱な区間もあるため、2m以上の掘削が困難と判断し、縄文包含層の確認は断念した。



第88図 I区土層堆積状況柱状図



第87図 I-1区域地図 (S = 1 / 3000)



<遺構> (第 89、91 ~ 93 図)

遺構としては、弥生時代、中世、近世以降と大きく 3 時期の遺構が確認された。但し、全体的に遺物を伴うする遺構が少なく、大部分が堆積土層や切り合い関係等からの推測となった。遺構面は、下から基盤層上面～⑥層上面（弥生前期以降の遺構確認）、⑤C・D 層上面（中世以降の遺構確認）、④B 層上面、④A 層上面（以上近世以降の遺構確認）、④C 層上面（近代以降の遺構確認）の 5 面が確認されたが、II 区や平成 15 年度の調査状況から見ると 5 A 層上面にも遺構面が存在するようである。

弥生時代の可能性をもつ遺構としては、A 区の SD 01、SK 01、B 区の SD 04・05 がある。SD 01、SK 01 については弥生時代前期頃の遺構と推定され、SD 04・05 も弥生時代の遺構である可性がある。いずれの遺構も遺跡の縁辺部でわずかに確認されたものであり、本来あったであろうその他の弥生時代の遺構は後世の削平等によってすでに破壊されているものと考えられる。

中世の遺構としては、B・C 区で SD 23 他溝状遺構、SK 10 他土壤状遺構などが確認されるが、特に C 区の溝列（SD 08～11）以北では大形の土壤群が密集しており、遺構の規模・密度ともに他と様相を画する。当該時期の生活中心部はこの区域であったものと推定される。

近世の遺構としては、B・C 区で SD 06・07 他溝状遺構、SK 02・03 他土壤状遺構、SX 01、などが確認された。

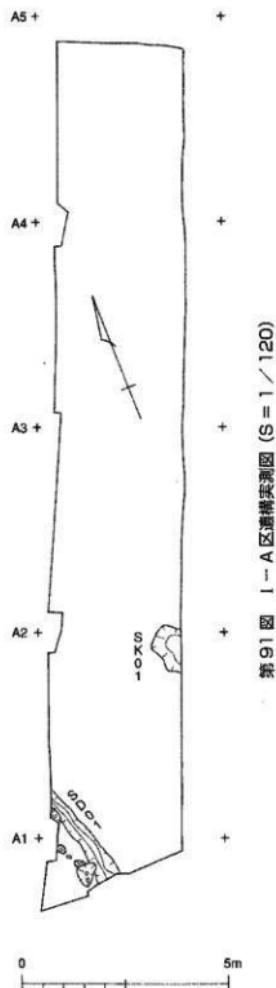
全時期を通じて遺物も少なく、生活の中心地域であったとは考え難い。耕作等に利用されたものであろうか。

なお、BC 区の前面で小ピット群が確認されるが、これについて 12～14 世紀の遺構面、近世の遺構面双方に見られるようであるが、上面での検出が難しいものもあり、明確な時期分けができなかった。中世以降の耕作に伴う遺構であろうか。

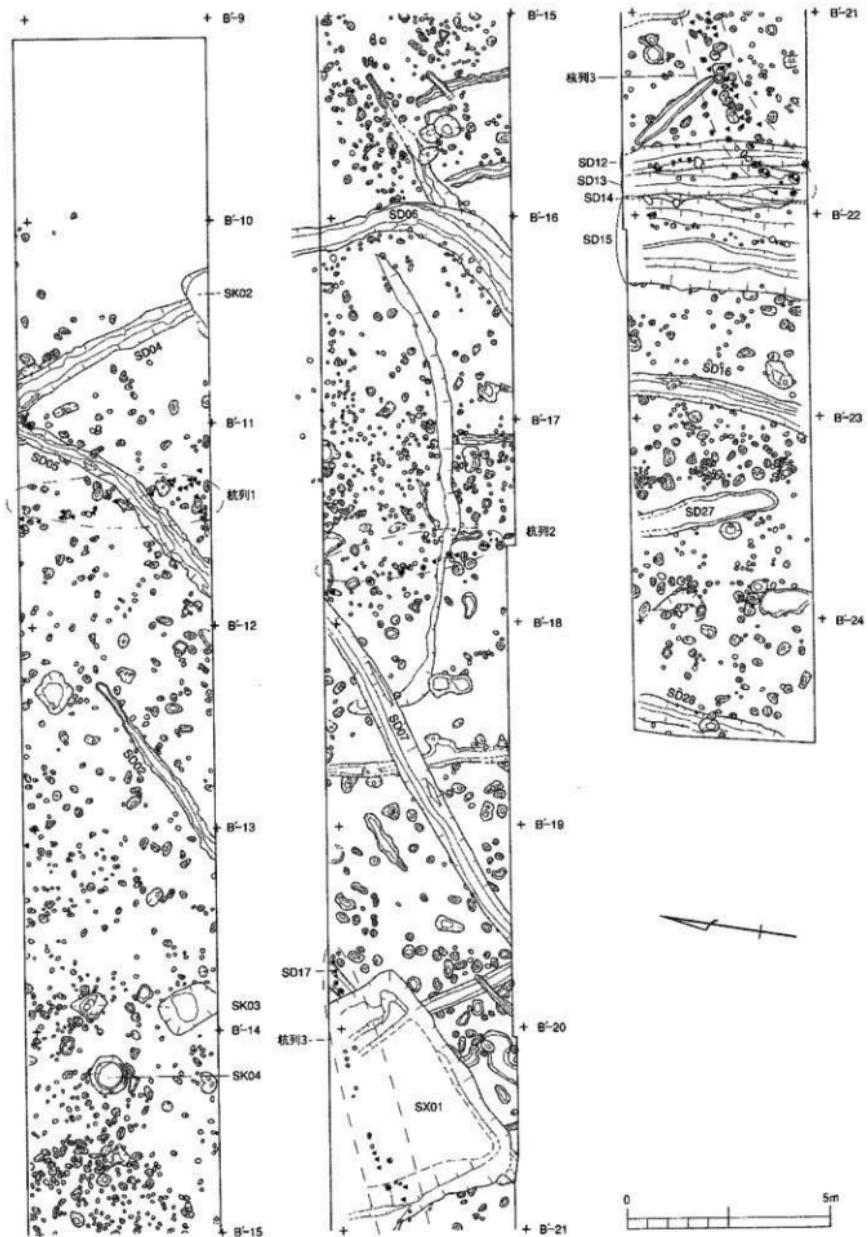
<遺物>

遺物には土器として弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器があり、その他漆器、石器、金属器、土製品等も若干出土している。遺物の時期としては弥生時代前期、弥生時代後期、古墳時代後期～近世のものが確認されている。出土量はコンテナ 10 箱に満たず少量であるが、中世土師器の破片が比較的多く確認された。また、遺構内よりの出土資料も極めて少なく、これらの遺物の大半は包含層出土遺物である。

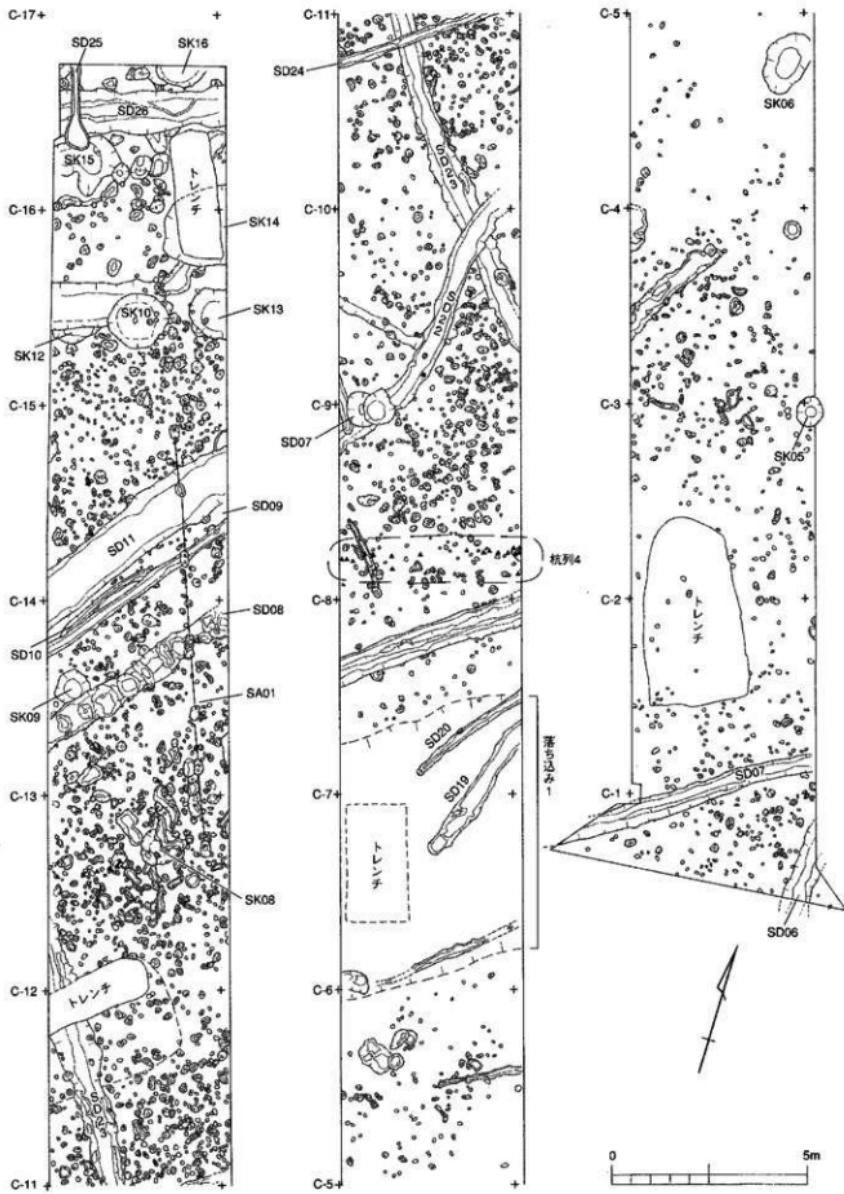
包含層出土遺物中で注目されるのは、広域に確認される



第 91 図 I-A 区遺構実測図 (S = 1 / 120)



第92図 I-B区造構測定図 ($S = 1/120$)



第93図 I-C区遺構実測図 ($S = 1/120$)

円筒埴輪や、1～2トレンチ間の側溝中から偶然発見された塙治氏家紋入り漆器碗である。いずれも当調査地で検出された遺構群に伴うものではないが、隣接の遺跡を検討する上で貴重な資料といえる。

2. 遺構と遺物

a. 溝状遺構

主な溝状遺構としては、弥生時代前期のSD 01、弥生時代の可能性があるSD 04・05、13～14世紀頃の築造と考えられる溝列（SD 08～11）・SD 23他、近世の築造と考えられる溝群（SD 12～15）他がある。この内遺構の時期判断可能な遺物を出土したものはSD 01と溝列のSD 11のみであり、大半が遺構面上下の遺物包含状況や遺構の切り合い関係の検討を含めた時期推定である。

<SD 01>（第94図、第99図-1～2）

幅0.4～0.6m、深さ0.1mを測り、北西～南東方向に伸びる溝状遺構。弥生時代前期の包含層⑤A層下面から検出されており、埋土中からも同時期の弥生土器片が出土している。

<SD 04>（第94図、第99図-3）

幅0.4～0.6m、深さ0.15mを測り、北西～南東方向に伸びる溝状遺構。埋土中より弥生土器片が出土している。

<SD 05>（第94図、第99図-4）

幅0.4～0.65m、深さ0.2mを測り、北東～南西方向に伸びる溝状遺構。SD 04と調査区北壁付近で交差しており、土層等からSD 04の後で掘り込まれた遺構であることが確認される。埋土中より弥生時代前期の土器片が出土している。

<SD 23>（第94図）

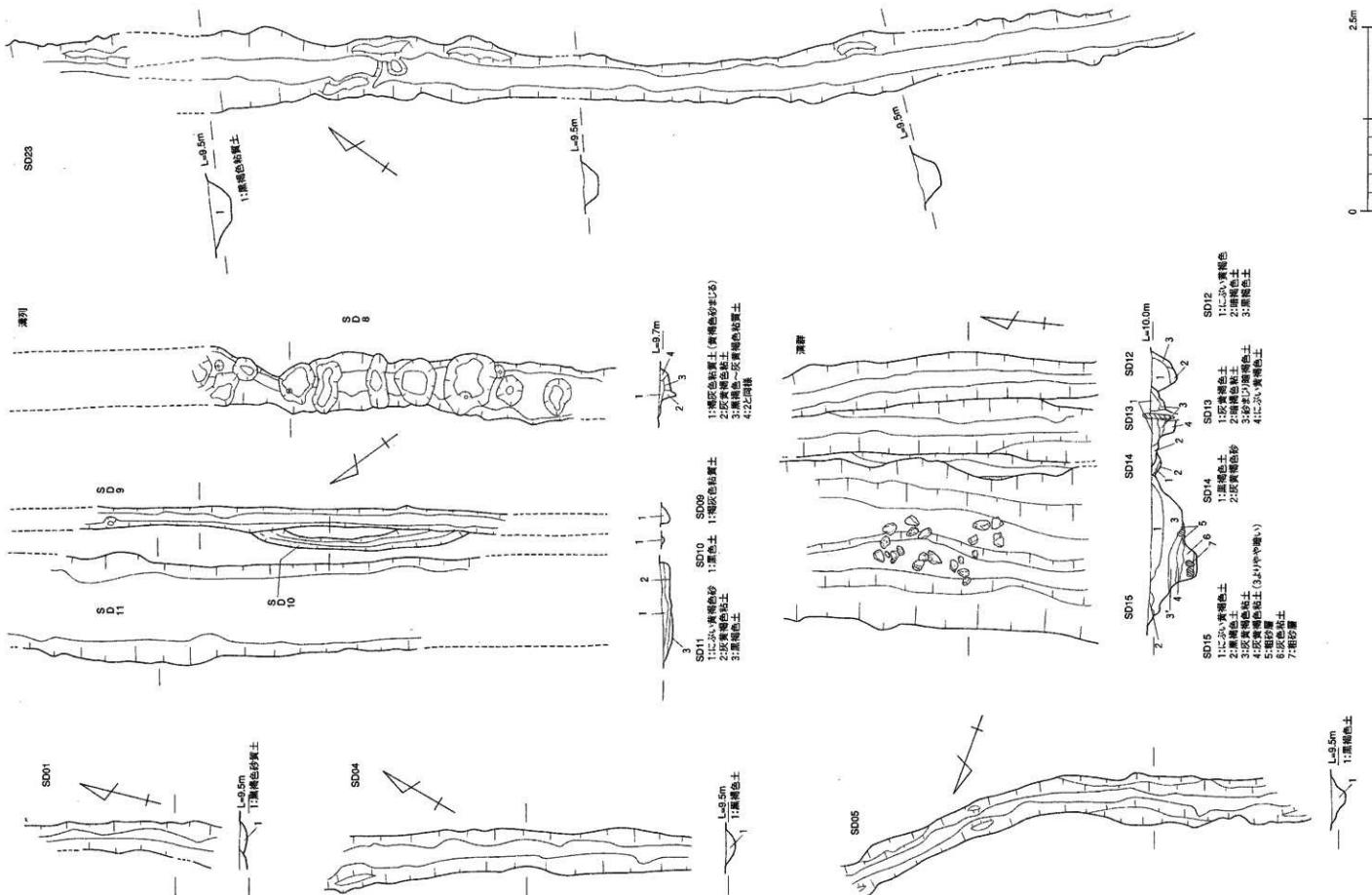
幅0.6～1m、深さ0.2～0.3mを測り、北西～南東方向に伸びる溝状遺構。遺物は出土していないが、中世包含層下層の⑤C層と中世包含層上層の⑤B層の境界面から掘り込まれており、13～14世紀の間頃に掘削された遺構と推定される。

<溝列：SD 08～11>（第94図、第99図-5～8）

C 14～15 Grで北東～南西方向に3本並行して伸びるSD 08・09・11とSD 09から派生するSD 10。それぞれSD 08は幅0.4～0.8m、深さ0.1～0.25m、SD 09は幅0.3m、深さ0.15m、SD 10は幅0.15～0.2m、深さ0.05m、SD 11は幅1.2～1.5m、深さ0.15mを測る。SD 11の埋土中からは12～13世紀頃の土師器壺、皿などが出土しているが、⑤C層上面から掘り込まれておりSD 23と同様の時期が想定される。

<溝群：SD 12～15>（第94図）

B 22～23 Grで4本重複して南北方向に平行に走るSD 12～15。それぞれSD 12が幅0.6m、深さ0.35m、SD 13が幅0.8～1.1m、深さ0.3m、SD 14が0.4m前後、深さ0.15m、SD 15が幅2m、深さ0.65mを測る。土層からSD 12・14→SD 13→SD 15の順に掘削された遺構と判断される。遺物は埋土中より須恵器、土師器、近世陶磁器等の細片が出土している。なお、Ⅱ区でもこの溝群と同様の遺構が確認されており、平成15年度の出雲三刀屋線に伴う発掘調査でもその延長が確認された。赤道部分にはほぼ沿った形で遺構が延長しているものと考えられる。



第94図 主要地塊構造図 ($S = 1 / 50$)

b. 土壙

主な土壙としては、弥生時代前期以前のSK 01、12～14世紀頃の築造と考えられるSK 04・06・08～16他、近世以降の築造と考えられるSK 02・03他がある。このうち遺構の時期判断可能な遺物を出土したものはSK 06・08・10のみであり、大半が遺構面上下の遺物包含状況や遺構の切り合い関係からの時期推定である。

<SK 01> (第95図)

短辺1m以上、深さ0.2m程度の不正形な土壙で、本来東西方向に伸びる長楕円形状であったと推定される。遺物は出土していないが、弥生時代前期の包含層⑤A層下面、縄文晩期～弥生前期の堆積砂屑上面で検出されている。

<SK 02> (第95図)

長辺1.6m以上、深さ0.6m程度を測る楕円形土壙。底面では湧水が生じる。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤B層上面で検出されている。

<SK 03> (第95図)

長辺1.5m、短辺0.9m、深さ0.9mを測る長方形に近い楕円形土壙。底面では湧水が生じる。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤B層上面で検出されている。

<SK 04> (第95図)

直径約1m、深さ0.9mを測る円形土壙で、筒状の断面形を呈する。底面では湧水が生じる。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤B層下面で検出されている。

<SK 06> (第95図、第99図-9～11)

長辺1.7m、短辺1.2m、深さ0.2mの楕円形土壙。埋土中より土師器片、陶磁器片が出土しており、14世紀頃の瓷器系甕片が確認される。

<SK 08> (第95図、第99図-12)

直径1m、深さ0.9mを測る円形土壙で、筒状の断面形を呈する。底面では湧水が生じる。中空筒状に黄灰色粘土層が確認され、本来木枠状の構造が存在したことがうかがえる。枠外の埋土2層より13世紀頃の土師器環が出土しているほか、枠内の埋土からも土師器細片が比較的多く確認された。

<SK 09> (第95図)

直径0.9m、深さ0.8mを測る円形土壙で、SK 08とほぼ同様の特徴を示す。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤D層下面で検出されている。

<SK 10> (第96図、第99図-13～17)

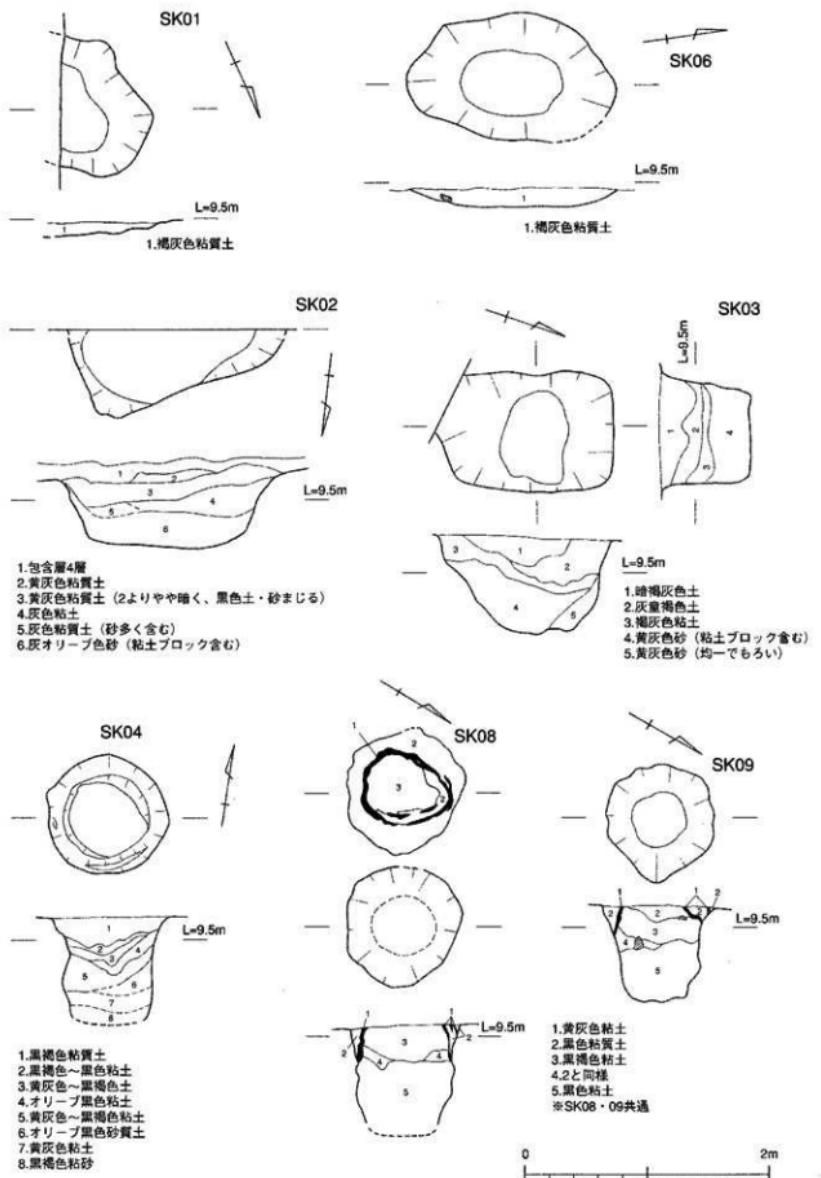
直径1.4m、深さ0.6mの円形土壙。底面では湧水が生じる。埋土中より多くの土師器小片が出土しており、遺物の時期はいずれも12～13世紀の範疇に入るものと推定される。

<SK 11> (第96図)

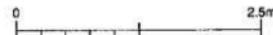
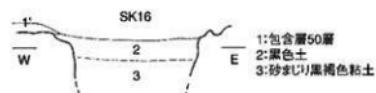
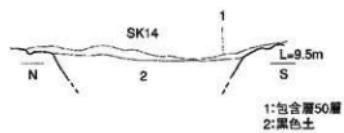
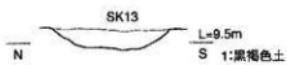
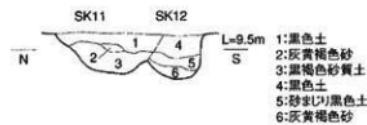
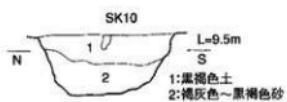
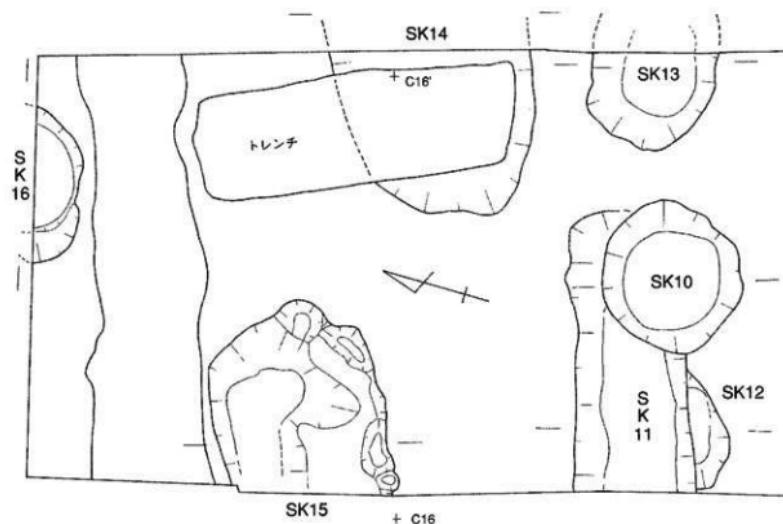
長辺2.9m以上、短辺1.2m、深さ0.4mの長楕円形土壙もしくは溝状遺構。底面では湧水が生じる。遺物は出土していないが、切り合い関係からSK 10より古い時期の掘削と考えられる。

<SK 12> (第96図)

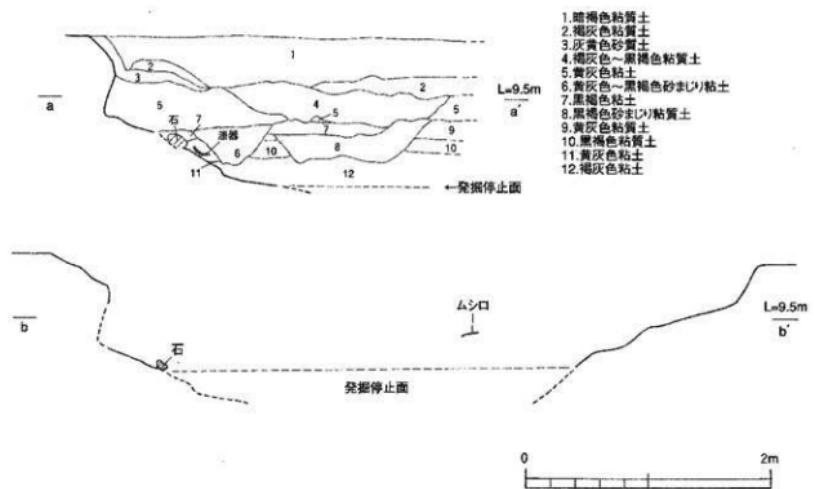
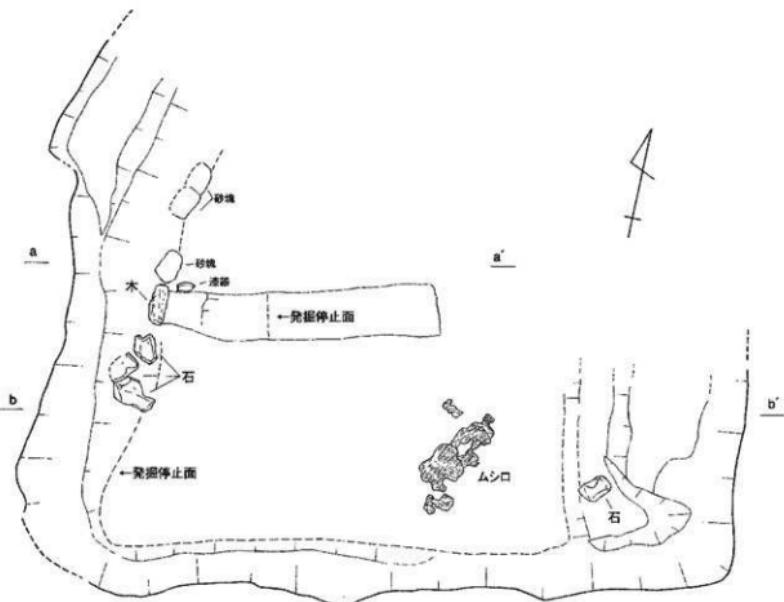
1.2m以上、深さ0.45mの円形もしくは楕円形土壙。遺物は出土していないが、切り合い関係から



第95図 主要土壤状遺構実測図-1 (S=1/40)



第96図 主要土壤状遺構実測図-2 (S=1/50)



第97図 S×01 遺構実測図-2 (S=1/40)

SK 10・11より古い時期の掘削と考えられる。

<SK 13> (第 96 図)

長辺 1.5 m 以上、短辺 1.2 m、深さ 0.2 m の楕円形土壙。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤D 層下面で検出されている。

<SK 14> (第 96 図、第 99 図-18、19)

長辺 2.3 m 以上、短辺 2 m、深さ 0.4 m 以上の楕円形土壙。標高 9.25 m 以下では湧水が生じる。埋土中から 12~13 世紀の土師器片が出土している。

<SK 15> (第 96 図)

長辺 2 m 以上、短辺 1.7 m、深さ 0.25 m の歪な楕円形土壙。底面は北側に極端に偏っている。複数の遺構が重複したものである可能性もあるが、土層等では確認できなかった。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤D 層下面で検出されている。

<SK 16> (第 96 図)

直径 1.3 m 前後、深さ 0.6 m 以上の円形土壙で、筒状の断面形を呈する。標高 9.25 m 以下では湧水が生じる。遺物は出土していないが、中世の包含層⑤D 層下面で検出されている。

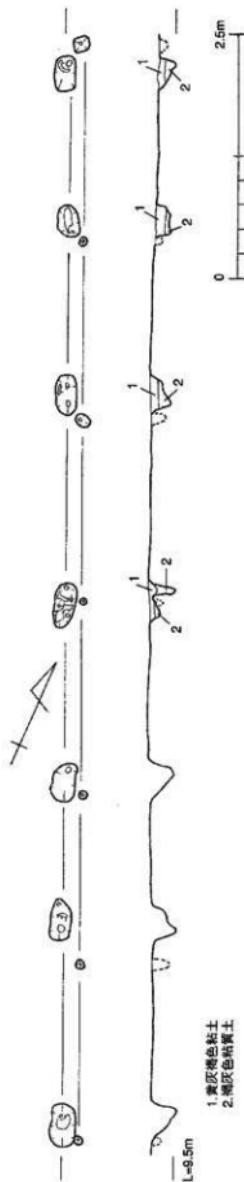
c. その他の遺構

<SX 01> (第 97 図、第 99 図-20)

1 辺 6 m 前後、深さ 1.3 m 以上の方形もしくは長方形掘り込み状遺構。非常に大形の特異な形状の遺構である。湧水や塙面の崩壊が著しく、底面までの確認はできなかった。南西側塙面では標高 9 m 付近の傾斜が非常に緩やかになった部分で土留のように石、木材、砂塊等が並んで置かれていた。砂塊は土糞等のなごりであろうか。また、SX 01-5 層では一部に蓮の痕跡が残っており、SX 01-5 層下面付近まで土が堆積した後に蓮が敷かれていた時期があったものと考えられる。遺構の性格等に着いては不明である。遺物は埋土中から土師器・陶磁器細片と漆器が出土しており、遺構の時期判断可能な遺物としてはこの内の漆器が挙げられよう。これは総黒色の洗下地漆器で、鳥かと思われる漆絵が朱漆で描かれている。近世の遺物と考えられる。

<SA 01> (第 98 図)

7 基の長楕円形ピットが連なるピット列で、およそ 1.8 m 間隔で直線上に並んでいる。ピット列のすぐ脇にも小ピットが平行して並んでおり、両者は関連性のある遺構と考えられる。



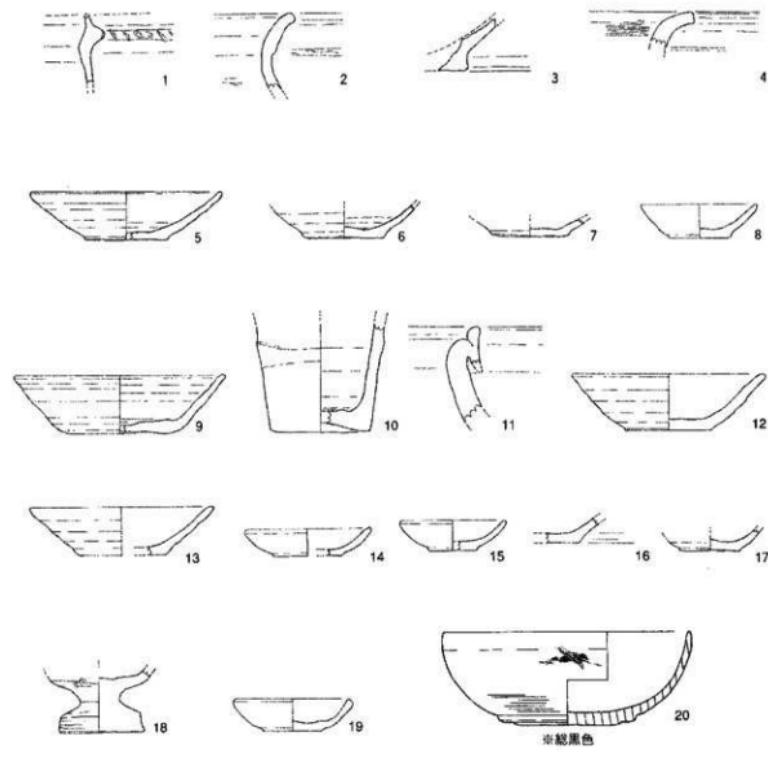
遺物は出土しておらず、検出面の検討等からも時期判断は困難であったが、切り合ひ関係等から溝列（SD 08～11）よりも新しい時期のものであることは確実である。

<小ピット群>（第92、93図）

B・C区においてほぼ全面で確認された小ピット群であるが、中世の包含層上面・下面共に確認され、しかも上面での完全な検出が困難であったため、時期ごとの明確な分類ができなかった。検出状況、塹面上層等から量的には中世以前のものが大部分であると考えられる。その多くは規則性等認められない。耕作等に伴うものであろうか。

<杭列>（第92、93図）

杭列は調査区内において4箇所で確認されたが、いずれも近世の包含層上面から打ち込まれたものであり、田面の区画にはほぼ沿った形で並んでいた。近代の区画杭であろう。



第99図 遺構の出土遺物実測図

d. 包含層出土遺物

< 5 A層出土遺物 > (第 100 図)

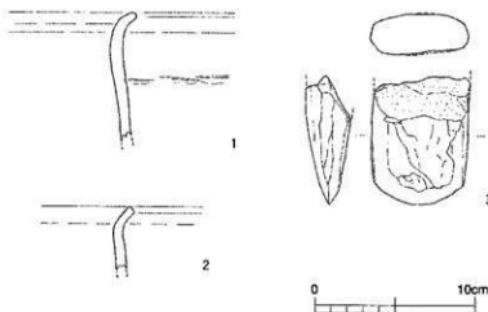
5 A層はA区のみで確認される土層である。出土量は少ないが、弥生時代前期の遺物が出土している。1、2は弥生時代前期の窓口縁部、3は磨製石斧である。

< 5 B～C層出土遺物 > (第 101 図)

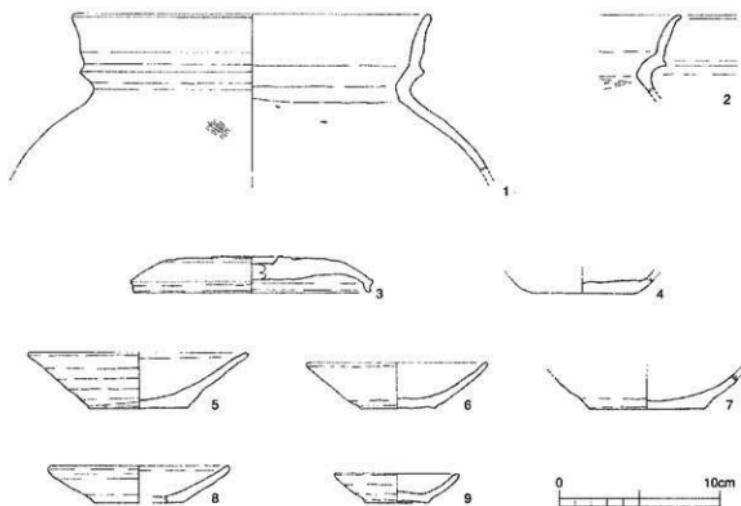
5 B～C層はB・C区で確認さ

れる土層である。ただし、層位的に遺物の取り上げができるのは I - B区のみである。弥生時代から中世にかけての遺物が混在している。1、2は弥生時代終末期の窓、3、4は古代の須恵器壺蓋、坏、5～9は中世の土師器壺、小皿である。5 C層の最下面で5、8が出土しており、近世以降の遺物は全く出土していない。土層堆積の時

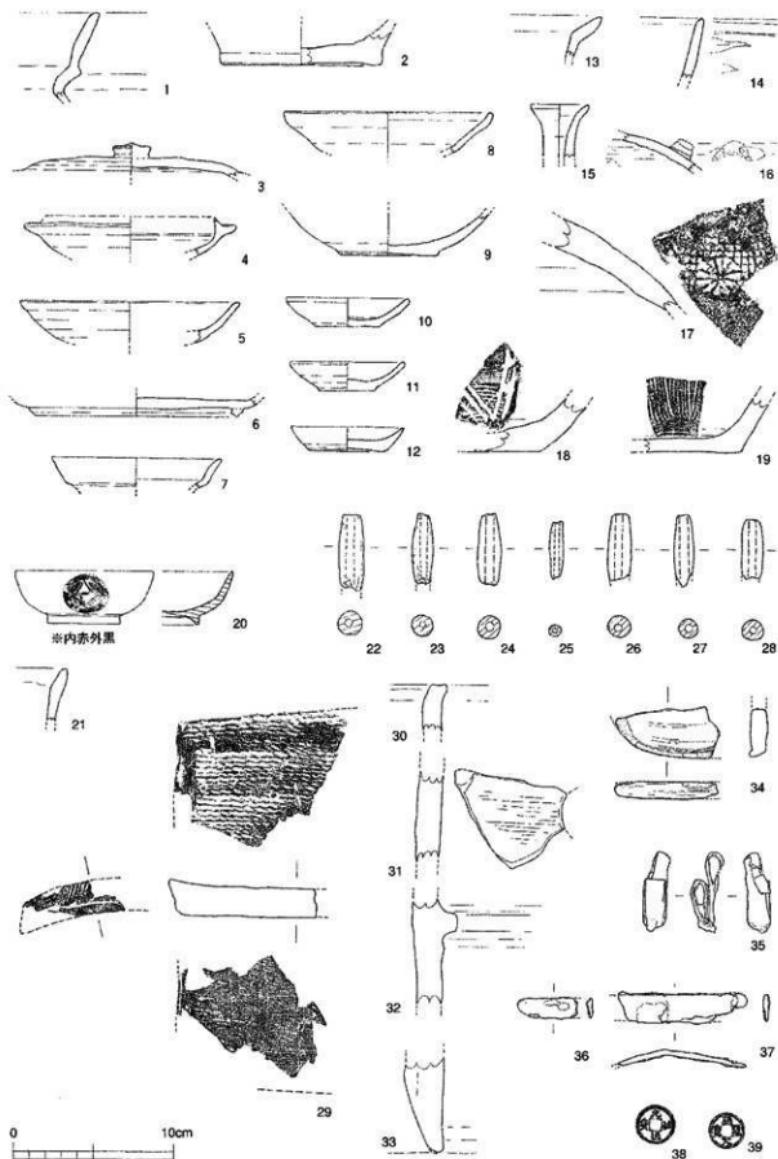
期としては 13～14世紀頃の年代が与えられようか。



第 100 図 5A 層出土遺物



第 101 図 5B～C 層出土遺物実測図



第102図 4層出土遺物実測図

<4層出土遺物>（第102図）

4層は調査区のほぼ全域で確認される上層で、5層の上層にあたるものである。弥生時代から近世まで多様な時期の遺物が混在している。大半が近隣より流入してきた資料であろう。なお、36、37については5層の遺物である可能性がある。1、2は弥生土器甕、3～7は須恵器片、8～12は土師器壺、小皿、灯明皿、13～19は陶磁器等の破片、20は漆器小椀、21～27は土錘、28は製塙土器、29は古瓦、30～33は円筒埴輪、34は石製品、35～37は鉄製品、38、39は占錢である。中でも特筆されるのは20の漆器小椀である。これは内赤外黒色の渋下地漆器で、内面の赤色はベンガラを混和した赤色漆であった。また、外面には灰色金屬粉で家紋の蒔絵が描かれている。時期は15世紀前後のものであろう。土層堆積の時期の参考になる資料としては、18世紀頃の陶胎染付椀（14）などが挙げられる。また、4層の下面に塗かれた造構から18世紀頃の遺物細片も確認されており、4層は18世紀以降の堆積土であると考えられる。

最後に、漆器小椀（20）に見られる家紋について若干の追加説明を加える。この家紋は見聞諸家紋に塩治氏の家紋とある輪連紋と推定される。見聞諸家紋記録の家紋とは細部において異なる部分もあるが、日御崎神社の「伝塩治判官高貢寄進四十八間筋兜」（県指定文化財）に配される輪連紋等と酷似している。製作時期が15世紀前後とみられることから、後塩治氏関連資料と考えられよう。出土地点が4層の比較的上層であり、長期間使用された後に18世紀以降廃棄されたものと考えられる。



「見聞諸家紋」塩治氏家紋



出土漆器家紋復元模式図
(中央花紋は残部からの想定)

第103図 塩治氏家紋比較図

第2節 II区の調査

1. 調査の概要

II区の調査は、試掘で遺跡を確認した墓地公園予定地ほか約1,700m²を対象とし、東側から随時本調査を実施した。なお、調査は表土・客土を重機で掘削し、それ以後手掘りによって作業を進めた。

<上層堆積状況>（第105～106、108図）

堆積上は基本的に上から①表土・客土、②青灰色粘土、③青灰色粘土（橙色粒子混入）、④黒褐色粘土、⑤黒褐色砂質土、⑥灰色砂質土、⑦暗褐色粘土の順に堆積し、④～⑦層上面で中近世の遺構面、⑦層上面で縄文の埋没林を確認している。一方、基盤層は南側丘陵の続きであったと推定される部分が④層上面でカットされており、丘陵の裾は④層以下に埋没している。

基盤層の上に堆積する⑦層は有機物堆積層で、埋没林が埋没する以前に堆積した層である。包含遺物から縄文時代のものと考えられる。⑥層は弥生時代初期前後までに堆積した火山灰質の砂層で、大規模な洪水により堆積している。④～⑤層は弥生時代から中世までの遺物が出土しており、⑤層は弥生土器に限定される可能性がある。一方、④層上面では近世以降に基盤層がカットされており、この時に包含層の一部が削平されている。

2. 遺構と遺物

a. 遺構と遺物

<遺構>（第104、107図）

遺構としては、中近世の溝状遺構を中心で、弥生時代から古代の可能性がある遺構もわずかながらある。しかしながら全体的に遺物が少なく、その大部分は堆積上層及び切り合い関係からの推測である。遺構面は④～⑦層上面の2面（中近世）が残存し、この他⑦層上面で埋没林を確認している。弥生から古代と考えられる遺構は、近世以降の削平で下部のみが残存したものと考えている。

<SD12>（第119～120図）

幅約1.1m、深さ約0.25mを測る溝状遺構で、⑤層上面から掘り込んでいる。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側では外方に直線的に立ち上がる。

第123図は弥生土器壺で、内面にヘラケズリ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施している可能性がある。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。

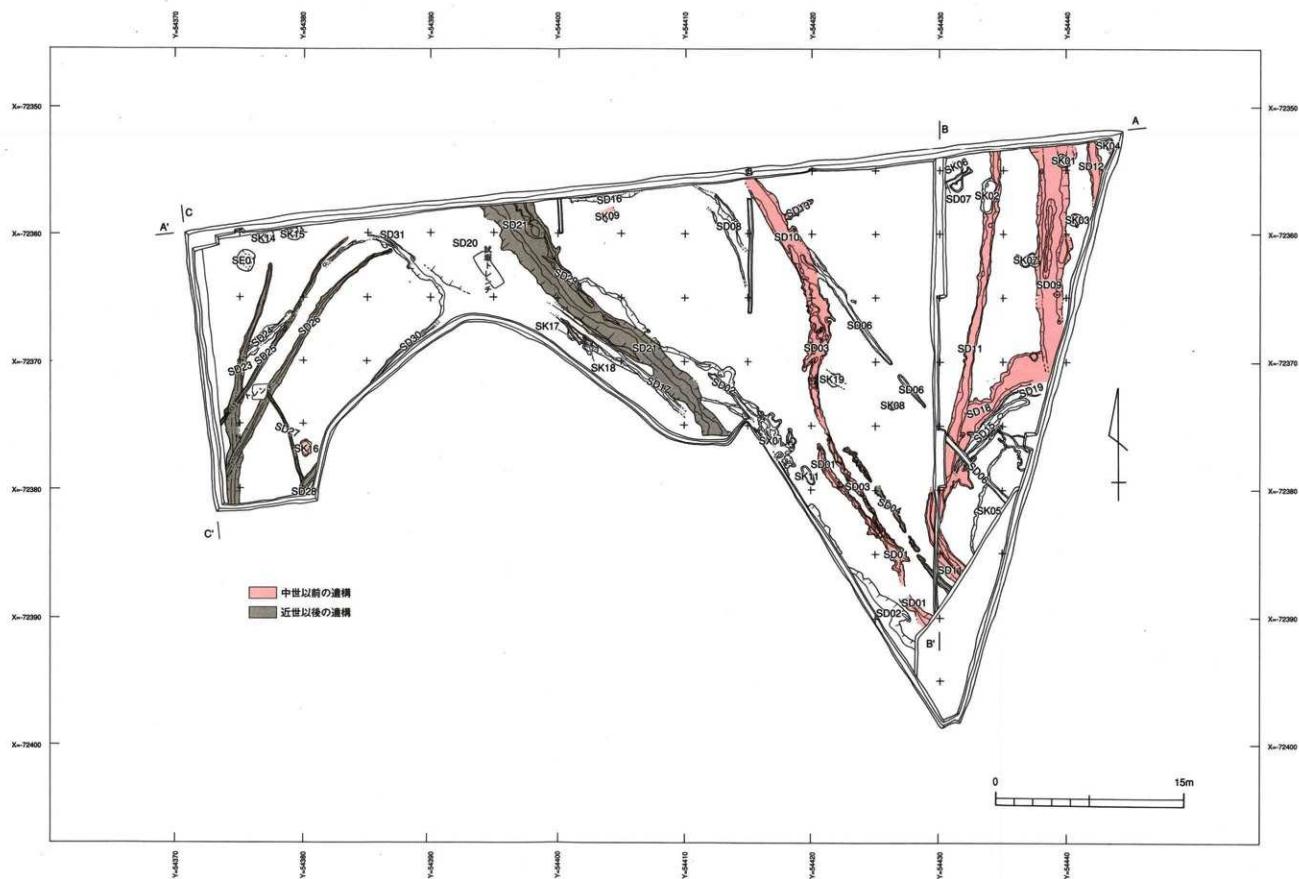
<SK01>（第122、124図）

東西約1.1m、南北約1.0m、深さ約0.15mを測る土壤で、壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で外方に直線的に立ち上がる。SD09との切り合い関係からSD09より新しい遺構と考えられる。

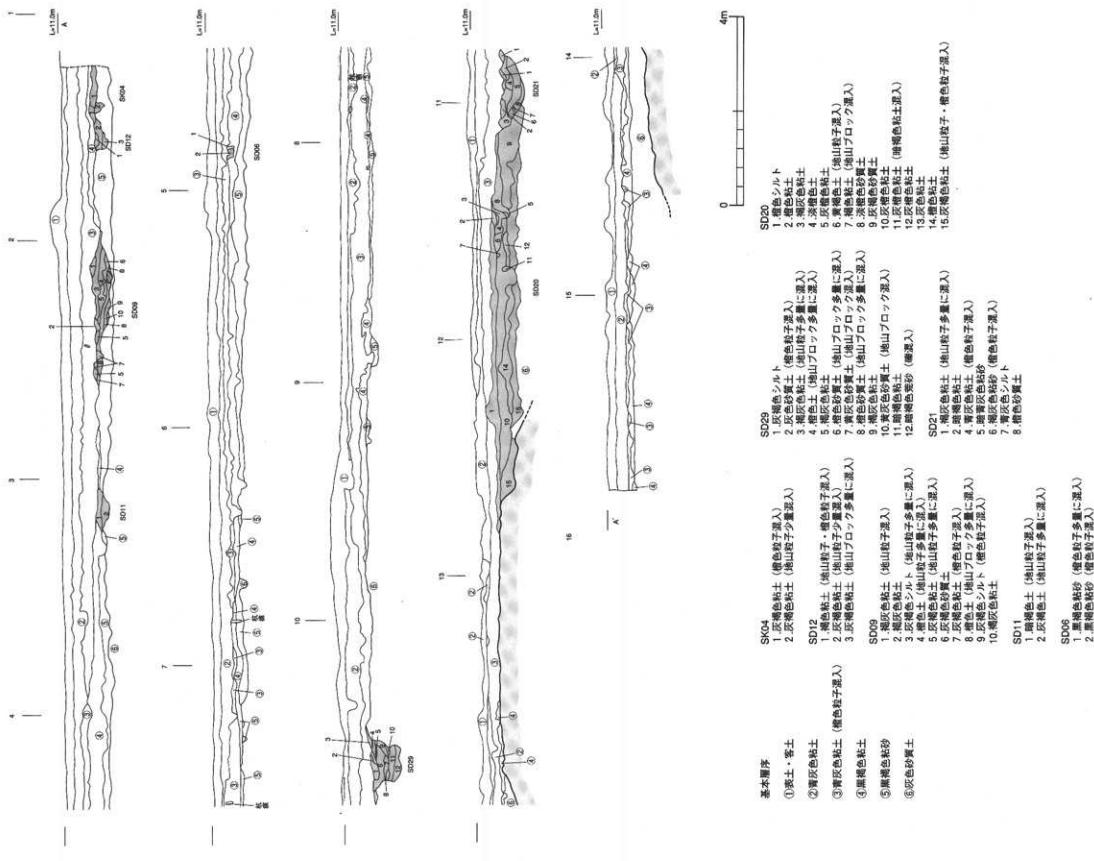
第127図は土師質土器壺である。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

<SD09>（第119、121図）

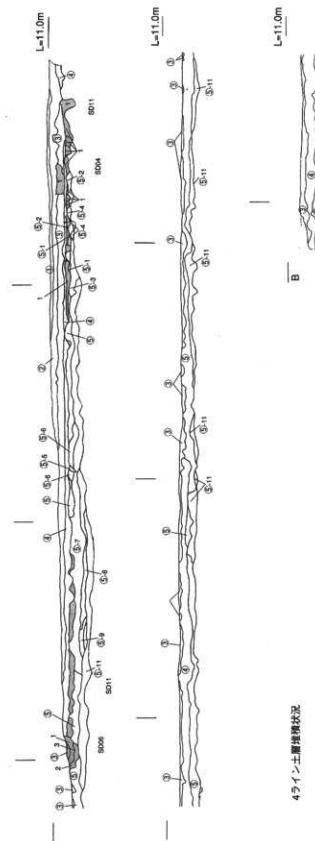
幅約2.4m、深さ約0.55mを測る溝状遺構で、近世以降に上面の一部をカットされているが、カットされていない地点の土層堆積状況から、⑤層上面から掘り込んでいると考えられる。壁の立ち上



第 104 図 II 区調査区全体図 (S = 1 / 300)

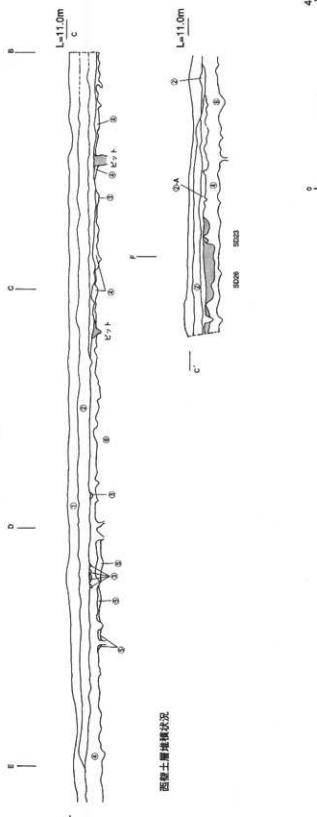


第105図 北壁土層構造状況 (S = 1 / 80)



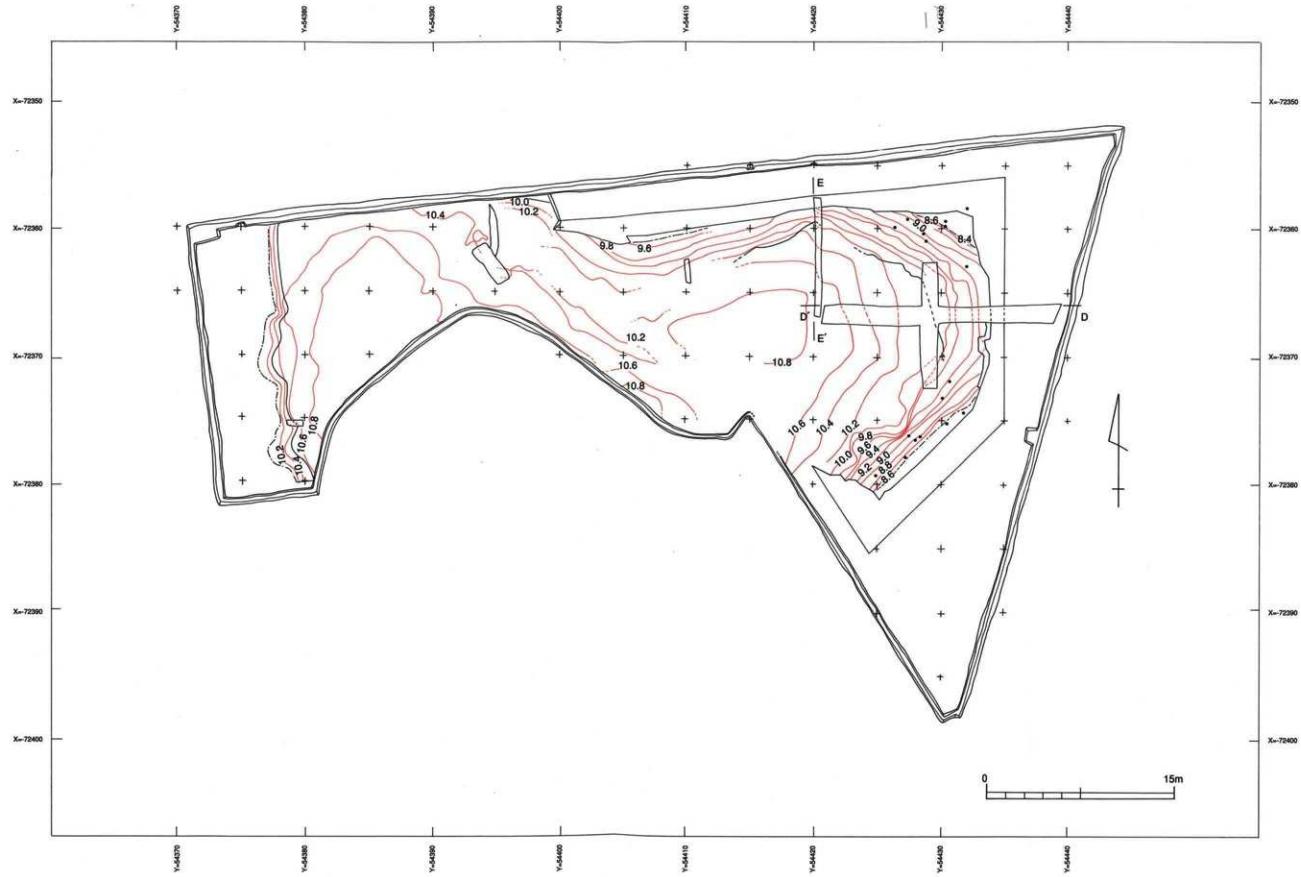
基本層序

①灰褐色粘土
②青灰色粘土
③青灰色粘土(褐色粒子混入)
④黑褐色粘土
⑤黑褐色砂砾
SD04
⑥① 灰褐色粘土(褐色粒子多量に混入)
⑥② 灰褐色粘土(褐色アゲロツ多量に混入)
⑥③ 灰褐色粘土(褐色粒子多量に混入)
⑥④ 灰褐色粘土(褐色アゲロツ多量に混入)
⑥⑤ 灰褐色粘土(褐色粒子多量に混入)
⑥⑥ 灰褐色粘土(褐色アゲロツ少量に混入)
⑥⑦ 灰褐色粘土(褐色粒子少量混入)
⑥⑧ 灰褐色粘土(褐色アゲロツ少量混入)
⑥⑨ 灰褐色粘土(褐色アゲロツ少量混入)
⑥⑩ 灰褐色砂砾
⑥⑪ 灰褐色泥炭



基本層序

①灰土・客土
②青灰色粘土
③青灰色粘土(褐色粒子混入)
④黑褐色粘土
⑤黑褐色粘土
⑥① A 灰色粘土(山林粒子混入)



第107図 II区調査区全体図2 (S = 1 / 300)